

平成 28 年 12 月 20 日

横浜市長
林 文子 様

横浜市公共事業評価委員会
委員長 森地 茂

平成 28 年度第 1 回横浜市公共事業評価委員会の審議結果について

横浜市公共事業評価委員会は、平成 28 年度第 1 回横浜市公共事業評価委員会において、横浜市附属機関設置条例に定める担当事務に基づき、事後評価 2 件、再評価 1 件、事前評価 1 件を審議した結果、全ての評価案件について妥当としました。

1 委員会の開催経過

第 1 回委員会：平成 28 年 10 月 25 日(火) 14:00～15:40

ア) 事後評価

	事業名	所管局	審議結果
教育－1	田奈・奈良中学校第二方面校(仮称)[あかね台中学校]整備事業	教育委員会 事務局	妥当
教育－2	元石川小学校第二方面校(仮称)[美しが丘西小学校]整備事業	教育委員会 事務局	妥当

イ) 再評価

	事業名	所管局	審議結果
公園－1	二ツ池公園整備事業	環境創造局	妥当

ウ) 事前評価

	事業名	所管局	審議結果
道路－1	(仮称)大岡川横断人道橋整備事業	道路局	妥当

2 意見具申
なし

[参考資料]

平成 28 年度横浜市公共事業評価委員会 委員名簿

(敬称略・50 音順)

委員名	現職名	専門分野
(いしかわ えいこ) 石川 永子	横浜市立大学 国際総合科学部 国際都市学系 准教授	都市防災、復興まちづくり 都市計画・建築計画
(かまた もとゆき) 鎌田 素之	関東学院大学 理工学部 理工学科 准教授	衛生工学、水道工学
(たなか いねこ) 田中 稲子	横浜国立大学 大学院 都市イノベーション研究院、准教授	建築環境工学 住環境
(なかむら ふみひこ) 中村 文彦	横浜国立大学 理事・副学長	都市交通計画、交通施設計画 都市計画、地域計画
(むろた まさこ) 室田 昌子	東京都市大学 環境学部 環境創生学科 教授	都市計画 市街地・コミュニティ再生
(もちづき まさみつ) 望月 正光	関東学院大学 経済学部 教授	財政学、公共経済
(もりち しげる) ◎森地 茂	政策研究大学院大学 政策研究センター所長 アカデミックフェロー、客員教授	社会基盤工学 国土政策、交通政策
(よこた しげひろ) 横田 樹広	東京都市大学 環境学部 環境創生学科 准教授	都市生態計画 緑地保全・創出
(わしづ あゆ) 鷺津 明由	早稲田大学 社会科学総合学術院 教授	産業連関論 環境影響評価、環境政策

(平成 30 年 3 月 31 日まで)

◎…横浜市公共事業評価委員会 委員長

平成 28 年度第 1 回横浜市公共事業評価委員会 会議録	
日 時	平成 28 年 10 月 25 日 (火) 14 時 00 分～16 時 00 分
開 催 場 所	関内中央ビル (市庁舎側) 10 階大会議室
出 席 委 員	森地茂委員長 石川永子委員、鎌田素之委員、田中稲子委員、中村文彦委員、 室田昌子委員、望月正光委員、横田樹広委員、鷺津明由委員 (50 音順)
事 務 局	財政局公共施設・事業調整室公共施設・事業調整課 藤田格室長、永木宏一郎課長
説 明 者 (事務局以外)	1 (1) 教育委員会事務局 施設部学校計画課 門林宏英担当課長 施設部教育施設課 奥村誠担当課長 ※以下(教育委)
	1 (2) 教育委員会事務局 施設部学校計画課 門林宏英担当課長 施設部教育施設課 奥村誠担当課長 ※以下(教育委)
	1 (3) 環境創造局 みどりアップ推進部緑地保全推進課 坂井和洋担当課長 ※以下(環創局)
	1 (4) 道路局 計画調整部企画課 井上義晃担当課長 ※以下(道路局) 都市整備局 都心再生部都心再生課 立石孝司担当課長 ※以下(都整局)
開 催 形 態	公開 (傍聴 0 人、報道機関 1 人)
議 題	II 横浜市公共事業評価委員会委員長及び職務代理者の選出 III 議事 1 審議 (1) [事後評価] 田奈・奈良中学校第二方面校(仮称)[あかね台中学校]整備事業 [教育委員会事務局] (2) [事後評価] 元石川小学校第二方面校(仮称)[美しが丘西小学校]整備事業 [教育委員会事務局] (3) [再評価] ニツ池公園整備事業 [環境創造局] (4) [事前評価] (仮称)大岡川横断人道橋整備事業 [道路局] 2 その他
決 定 事 項	II 横浜市公共事業評価委員会委員長に森地委員を選出した。 森地委員長が、職務代理者に中村委員を指名した。
	1 (1) 田奈・奈良中学校第二方面校(仮称)[あかね台中学校]整備事業 ・事後評価 (案) について「妥当」とした。
	1 (2) 元石川小学校第二方面校(仮称)[美しが丘西小学校]整備事業 ・事後評価 (案) について「妥当」とした。
	1 (3) ニツ池公園整備事業 ・意見具申なしとした。対応方針 (案) について「妥当」とした。
	1 (4) (仮称)大岡川横断人道橋整備事業 ・意見具申なしとした。事業実施 (案) について「妥当」とした。

議 事	<p>はじめに</p> <p>(事 務 局) 委員会の定足数5名に達しており、会議が成立していることを報告。 会議を公開することについて確認。 各委員の自己紹介。</p> <p>II 横浜市公共事業評価委員会委員長及び職務代理者の選出</p> <p>(事 務 局) 委員長の選出について、委員の方からご提案があればご発言を。 (望月委員) これまでの経験等からみて森地委員にお願いしたい。 (事 務 局) その他にご提案がないため、森地委員を委員長としたい。 (委 員) 異議なし。 (事 務 局) 森地委員を委員長に選出する。</p> <p>(事 務 局) 職務代理者の選出について委員長から指名を。 (委 員 長) 中村委員にお願いしたいと思う。 (事 務 局) 異議ないため、中村委員を職務代理者とする。ここからは進行を委員長 にお願いする。</p> <p><u>1 (1) 田奈・奈良中学校第二方面校(仮称)[あかね台中学校]整備事業について</u> <u>1 (2) 元石川小学校第二方面校(仮称)[美しが丘西小学校]整備事業について</u></p> <p>(委 員 長) 議事Ⅲの1 (1)および(2)についてまとめて説明を行い、審議は、それぞ れについてお願いします。</p> <p>(教 育 委) 田奈・奈良中学校第二方面校(仮称)[あかね台中学校]整備事業および元 石川小学校第二方面校(仮称)[美しが丘西小学校]整備事業について説明。</p> <p><u>1 (1) 田奈・奈良中学校第二方面校(仮称)[あかね台中学校]整備事業について</u></p> <p>(委 員 長) 質問等あればどうぞ。 (鷺津委員) 太陽光発電装置を設置しているようだが、発電量や経営に関する効果は どの程度出ているのか。 (教 育 委) 太陽光による発電量は、年間約1万kW程度であり、学校全体の使用料 25万kWのため、約4%をまかなっている。また、太陽光については、児 童に環境を身近に感じることができるような教育的な効果もあり、例えば エントランスホールに現在の発電量を示すなどして、環境教育の面でも役 立てている。 (室田委員) 中学校区域から見れば、結果的にあかね台中学校の場所は、通学区域の かたよったところになっているが、地元からの意見等はどのようになっ ているか。 (教 育 委) 学校を新設する、もしくは学校を統合する際には、地域の自治会長や連 長、PTAの会長などの代表の方と学校長などを交えて、話しあうことにな っている。地域からは、地域を分断しないようにとの意見、保護者は通学</p>
-----	--

路の安全が確保できるのかとの観点で意見が出た。通学区域についても検討委員会を開き、その中で皆さんが最終的に合意して決定した結果が現在の学校位置、通学区域である。

(室田委員) 地域ケアプラザと学校は一体になっているのか。

(教 育 委) 同じ敷地内にあるが、建物と運営は別になっている。

(室田委員) もし、将来的に中学生が減ってきた場合は、運営は一体にするなど踏み込んだ考えはあるのか。

(教 育 委) 一体とまではなっていないが、地域交流室など、例えば、一時的に調理室の利用について、学校の施設を利用するなどの動きはある。地域ケアプラザと一体的な利用などを今後検討していきたい。

(室田委員) 是非、有効に活用して欲しい。

(委 員 長) 他に意見、質問はないか。

(石川委員) グラウンドにスロープがあるが、車いすの避難も考えているのか

(教 育 委) そうです。

(石川委員) 地域ケアプラザは要援護の方の拠点となっているが、ソフト面での連携はどのようなことをしているか。

(教 育 委) この学校については、実際の連携は確認しなければわからないが、地域交流室や体育館が近接していることでソフト面での何らかの連携は可能だと思っている。

(委 員 長) 本案件は妥当で良いか。

(委 員) 異議なし。

(委 員 長) 本件の審議は以上。

1 (2) 元石川小学校第二方面校(仮称)[美しが丘西小学校]整備事業について

(委 員 長) 質問等あればどうぞ。

(中村委員) 学区見直し以前はバス通学だったのか。美しが丘西小学校の新設によりバス通学は解消できたのか。

(教 育 委) 以前は4割程度、バス通学があったが、新たな通学区域の中央付近に小学校が新設されたということもあり、バス通学は解消できている。

(中村委員) その結果、様々な面でどのようなプラス効果があったのか。本市においてバス通学している事例は他にあるか。

(教 育 委) バス通学していた児童は、集団登校しており、学年が進むにつれ、上級生が新生と一緒に登校している。バス通学の有無によらず集団登校を行っており、そのような意味で、通学に関してあまり影響はないと思っている。

バス通学の他の事例については、方針の中で小学校はおおむね2km以内に設置し、原則、歩いて通学できるようにしている。

(横田委員) 元石川小学校の児童数推計について、減少が見込まれているが、どのような理由が考えられるのか。

(教 育 委) 元石川小学校の区域では、大規模な開発等見込まれておらず、比較的落ち着いた推移となっており、学区域の児童が年齢進行によって、一定程度減少が見込まれているという状況になっている。

(石川委員) 全国的傾向として少子化が進んでいるが、少子化が進行していく場合の学区域について何か考えはあるのか。

(教 育 委) 横浜市全体としてみれば、少子化が進んでいるが、一部地域においては児童が増えて、学校を新築しているところもある。一方で、児童が減少しており、全学年が単級となっている学校が7校ある。このような学校は学校運営上、様々な課題が出てきたりするので、近隣学校と統合を考えたり、近隣校と通学区域を、学校と地域住民などの確認・意見を聞きながら調整している。

(石川委員) それはそうだと思うが、ハードとして、例えば、ほかの目的に使ったりはする考えはないのか。また、標準仕様を強調しているが、災害避難時などの配慮などはどのようなことがあるか。

(教 育 委) 学校は地域防災拠点として、災害時に避難する場所として位置づけられている。その場合、体育館に避難することになるが、体育館は、一般の建物の1.5倍の耐震性を標準としている。かつ、避難生活のための備品の備蓄も行っている。

(石川委員) 防災的な連携をしているということか。

(教 育 委) そうです。

(室田委員) 避難区域と通学区域は一致しているのか。

(教 育 委) 横浜市内の各避難区域と通学区域はすべて同じではない。

(鎌田委員) 児童数の推計について、11 学級とあるが、学年によっては単級があるということか。

(教 育 委) そうです。先ほど、説明した7校とは全学年が単級となっている学校のことである。単学年で単級となると、市内でも他にいくつか出てきている状況にある。

(鎌田委員) 横浜市としては、単級は望ましくないとの理解で良いのか。

(教 育 委) 小規模校の良さはあるが、人間関係の醸成や競争性などの面で12 学級は確保することを基本としており、小規模校は、運営上、何らかの課題があるとの認識はある。当該校は12 学級と適正規模で推移しているので、現在のところ、問題ないと考えているが、将来推計を見ながら考えていきたい。

(鎌田委員) 用地は誰が保有していたのか。

(教 育 委) 市で保有していた学校予定地であった。

(田中委員) 第2 方面校とあるが、設置期限はあるのか。

(教 育 委) 本件は恒常的な学校で、10 年限定などの期限は無い。

(石川委員) 地域防災拠点ということで、4 年程度経過しているが、運営状況や活動の頻度などについてはどのようになっているか。

(教 育 委) 地域防災拠点の件は、総務局が担当しており、今は答えられないが、問題ないと考えている。

(石川委員) 担当部署が違うということは理解しているが、地域防災拠点は設定するだけでは意味が無いので、そのような運営についても把握しておいた方が良いのではないか。

(委 員 長) 本案件は、“妥当”で良いか。

(委 員) 異議なし。

(委 員 長) 本件の審議については以上。

1 (3) 二ツ池公園整備事業について

(委 員 長) 議事Ⅲ 1 (3)について説明を。

(環 創 局) 二ツ池公園整備事業について説明。

(委 員 長) 質問等あればどうぞ。

(横田委員) 獅子ヶ谷池について、現在、ヨシ原になっているが、今後、どの程度変更していくのか。

都市計画道路と重なっている部分についての整備はどのように考えているのか。

今後の維持管理コストの単価について、どのように考えているのか。

(環 創 局) 獅子ヶ谷池は、水質改善のために一部植生を除去したりするが、生物環境保護の面を考慮して、現状からあまり大きく手を入れることは考えていない。

都市計画道路については、現時点では事業化の目途が立っていないので当面は問題ないが、道路事業の整備計画を把握した上で、親水空間を維持していけるように整備したい。

地域のボランティアが積極的に参画しているので、今後も大規模な委託などはせず、現状の維持管理を続けていきたい。そのため、設定単価も他の近隣公園と同様として問題ないと思っている。

(横田委員) 獅子ヶ谷池は、今後整備が進むと、親水性としても生態系としても手を入れていく必要があると思うので、長期的な管理計画を考えてほしい。

(環 創 局) わかりました。整備工事や管理作業を実施する上で、生物環境についても配慮し、現状を維持したいと考えている。

(中村委員) 費用便益分析のパラメータについて確認したい。25、26 ページの様式 5～7 とは何か。感度分析を単純に 10%下げているが、その理由について、教えてほしい。

(室田委員) 様式とは国交省のマニュアルに書いてあるのではないか。

(環 創 局) そうです。パラメータについても国交省のマニュアルに従っている。

(中村委員) それでは、感度分析についてはどうか。

(委 員 長) 国交省のマニュアルにパラメータまで書いてあるのか。例示ではないのか。

(環創局) 例示ではない。そのまま採用している。

(鷺津委員) 小規模公園のマニュアルには書いてあるのは、北海道の公園だろうが都心の公園だろうと同じ数字になっているか。全国的な比較をするには、これはこれで重要だと思っている。

(横田委員) 地域性を反映するのが望ましいとは思いますが、汎用性を重視したということで効用関数法を使用したというのであれば良いと思う。

(中村委員) 使っている方が分かっていないと、説明にならないため良くない。

(望月委員) 用地については、一部寄付があったということだが、計算上の用地費はどのようにして設定したのか。寄付部分は実質ゼロではないのか。

(委員長) 費用は、市負担とか国負担とか、どこからの金額かは関係なく、プロジェクト全体の費用だということで計算しているということか。

(環創局) 寄付を受けた用地については、買収した価格を基本に、年度の変動率を近傍箇所から推定して、計算している。

(委員長) 質問は、それは費用ではないが、何故それを費用としたのかということ。

(環創局) マニュアルに寄付もコストに入れて計算するとあり、そのようにしているため、実際の事業費とは異なっている。

(望月委員) 事業費を出すために数字を入れておかないと、計算の過程上では必要で、そうしないと正しい費用便益を算出できないということ。一方で実際の事業費は違うということが良いか。

(環創局) そうです。

(委員長) 様式の話については。

(環創局) マニュアルに記載されているものです。

(中村委員) 感度分析についてはどうか。便益の感度分析はマイナス 10%と書いてあるのか。

(環創局) マニュアルに記載されている。

(鷺津委員) マニュアルによれば、全国的な比較ができ、分かりやすいが、市としての特徴もあると良いかもしれない。

(委員長) マニュアルに従って費用便益を算出することはもちろんであるが、事業を実施する以上、説明責任を果たせるよう算出根拠をしっかりと把握しておくべき。

(横田委員) 便益分析において、防災効果を見ているが、防災的な側面を持たせる位置づけは。

(委員長) その辺は、19 ページに少し書いてある。他にはどうか。

(石川委員) 確認だが、例えとしては 19 ページにある形で良いとして、二ツ池公園については、防災施設について「無し」とある。他の防災施設が近くにあるなどの理由付けはできるのか。

(環創局) 大規模な公園はこのような施設がある所もあるが、二ツ池公園については設置しておらず、他の防災施設は近くの小中学校にある。

(委員長) 計算上、防災施設はカウントしないということが良いか。

(環創局) 良いです。

(田中委員) 維持管理について、公園愛護会があるが、愛護会の活動が維持できないケースがあるとの話を聞いたことがある。この公園ではどの程度の割合で実施しているのか。

(環創局) 維持管理費については、近隣公園の実績から面積割合で算出している。ここの公園については、愛護会の活動が積極的であることから、通常の公園よりも維持管理が上乗せできるので縮減できると考え、記載している。

(田中委員) 記載するのは良いが、将来的に仕組みとして維持管理を考えていかなければいけないのではないか。

(望月委員) 愛護会が関わることは良いとは思いますが、水質の維持は、実質的にはかなりコストがかかる。この資料はマニュアルに従って算出しているということで良いが、今後、環境管理計画を別途作成し、その中でどの程度、愛護会が管理に携わるかということも記載していくことになると思う。この資料の金額よりもコストがかかるということを指摘しておく。

(委員長) 意見具申は、つけなくて良いか。

(望月委員) つけなくて良い。

(委員長) 資料を公表する前に、今の指摘箇所の資料は修正しておくように。事業の継続については妥当ということで良いか。

(委員) 異議なし。

(委員長) 本件の審議については以上。

1 (4) (仮称)大岡川横断人道橋整備事業について

(委員長) 議事Ⅲ(4)について説明を。

(道路局) (仮称)大岡川横断人道橋整備事業について説明。

(室田委員) 北仲通地区全体の歩行者の見込みである10万人の根拠は。

(道路局) 国交省の大規模開発のマニュアルに従い、北仲通北地区での整備床面積による就業人口と居住人口を推計している。

(室田委員) それだけ人が増えるのであれば、車の量も増えるのではないか。

(道路局) 車の量は算出していないが、当然、増えると考えている。ただし、今回の事業によって歩道が分離できるのであれば、歩行者の安全性は確保できると考えている。

(室田委員) 整備される床面積はいつ確定するのか。

(都整局) 民間が開発する北仲通北地区は8つの地区に分かれており、都市計画までは決まっているが、事業計画の詳細が決まっていない地区もある。都市計画容積率からの概算になるが、この11月から床面積にして約17万 m^2 の事業が着手される。整備床面積42万 m^2 については、北仲通南地区の新市庁舎の約14万 m^2 および既存のアイランドタワー約4万 m^2 は含まれていない。

(室田委員) この歩行者の推計は、北仲通地区で開発が見込まれる約42万 m^2 と約

18万m²の延べ床面積の増加分から算出したとの理解で良いか。

(道路局) はい。

(中村委員) 桜木町駅側の2ルートはどこに接続する予定なのか。既存の歩道はあふれないのか

(道路局) 1ページ目の図中の赤い矢印の内、左上に向かうルートは、クロスゲート前と富士ソフト前の既存デッキに接続する予定となっている。歩行者量については、現状、4mの幅員であり、計算上、大丈夫である。

赤い矢印の左下に向かうルートは、現在の郵便局付近で、JR京浜東北線のガードの手前で地上に降りることになる。また、その付近に既設の人道橋があるが、そこと接続することを考えている。

(委員長) 道路横断せずに駅までいけるのか。

(道路局) はい。

(望月委員) 資料には「防災上」との話もあったが、JR桜木町駅のホームにつながらないと防災上、意味が無いのではないか。

(道路局) 委員のおっしゃったことは一つのアイデアだとは思いますが、既設のデッキにつなげ、デッキ全体としてつながることを想定している。災害発生時は、まずはデッキを通じて、新市庁舎などに避難することを考えている。JR桜木町駅のホームに接続となると入口を設置する必要があり、JR京浜東北線を超えるとなるとさらに高くする必要があるため、現時点ではそこまで考えていない。

(望月委員) そういう問題をどのようにクリアしていくかということを考えておかないといけない。

(石川委員) 回遊性などの話があったが、バリアフリーやソフト的な面について、サイン計画はどのようになっているのか。

(道路局) 今の段階では、人道橋の橋脚の位置などを詰めている段階である。サイン計画など今頂いた意見については、来年度の詳細設計で詰めていく予定としている。

(都整局) 北仲通地区のサインについては、地権者により北仲通北地区デザインガイドラインの中にサインガイドラインが定められ、地区内サインと公共サインの統一が図られることになっている。ガイドラインの策定には都市整備局の都市デザイン室にも関わってもらっている。例えば、公共サインで使用する地図を地区内でも使用し、来街者にわかり易い案内が出来るような配慮などが盛り込まれている。

(石川委員) デザインだけではなく、現在の場所がどこか分からないなどが無いように掲示方法や位置などを検討してほしい。

(横田委員) 辨天橋の歩道拡幅などはないのか。また、関内側からの回遊性についてはどのようになるのか。既存の大岡川のボードデッキレベルで対岸から対岸へのアクセスはないのか。

(道路局) 辨天橋の拡幅については、既に拡幅したものとなっており、これ以上で

	<p>きない。回遊性については、ボードデッキレベルでのアクセスではないが、川から地上レベルに上がった所などの広場空間から人道橋へのアクセスルートは検討している。</p> <p>(横田委員) バリアフリーの観点で言えば、お台場などでは、エレベーターを待っているベビーカーの後ろに車いすが並ぶという光景も見られるので、よく考えて配置してほしい。</p> <p>(委員 長) 意見具申は何か付けるか。</p> <p>(委 員) 無しで良い。</p> <p>(委員 長) 大岡川人道橋について、“事前評価は妥当、意見は無し”で良いか。</p> <p>(委 員) 異議なし。</p> <p>(委員 長) 本件の審議は以上。</p> <p><u>2 その他</u></p> <p>(委員 長) 事務局からその他あるか。</p> <p>(事 務 局) 特にありません。</p>
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特 記 事 項</p>	<p>1 資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次第・座席表・委員名簿 ・ 資料① [事後評価] 田奈・奈良中学校第二方面校(仮称)[あかね台中学校]整備事業の調書など一式 ・ 資料② [事後評価] 元石川小学校第二方面校(仮称)[美しが丘西小学校]整備事業の調書など一式 ・ 資料③ [再評価] 二ツ池公園整備事業の調書など一式 ・ 資料④ [事前評価] (仮称)大岡川横断人道橋整備事業の調書 <p>2 特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の会議録は、委員長に確認する。 ・ 本日の審議結果等の資料は、委員長の確認で確定する。